



発行所(〒371-8666) 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
電話 市外局番(027)
編集 254-9933 (広告) 254-9944
販売 254-3131 (事業) 254-9955
印刷 254-9985 (出版) 254-9966
(発行) 254-9881 (発送) 254-9984
(総務) 254-9977 (総合) 254-9911
©上毛新聞社 2007年

草津町が滞在プラン

旅館・ホテル 11施設参加 宿泊増へ協議会

健康講座を 食、運動、森林浴、時間湯 通年提供

草津町は、温泉や自然環境を利用した滞在者向けの健康増進事業を来年度にも導入する。旅館組合、ザスパ草津、吾妻森林管理署などと連携し、健康食の提供や温泉療法の実践指導、体験や森林浴などの健康講座やサービスを開発。宿泊客らが常時、利用できるようにする。温泉地間の競争が激しさを増す中、湯治場としての草津温泉の機能と自然環境を健康志向の中高年らにアピール、常連客と滞在型の宿泊の増加につなげる。

町、草津温泉旅館組合 療法などの研究に取りなど主要団体、ザスパ草津 組む温泉観光士協会など津を運営する草津温泉 十二団体が二十日までにフットボールクラブ、草 協議会を発足。講座の津森林療法協議会、温泉 開発や普及の準備に着手

した。計画しているサービスマニユー・講座は、栄養士がカロリリー計算した食事の提供、草津伝統の「時間湯」を活用した温泉療法の実践指導、ザスパ草津と連携したストレッチ体操、温泉街を取り巻くコースを利用した森林浴ウォーキング、健康食についての講義など。

宿泊先などにメニューを用意し、希望のサービスマニユーを年間を通して利用できるようにする。すでに十一の旅館、ホテルが参加を表明している。

中沢敬町長は「健康は二十一世紀の温泉観光地には、はずせないキーワード。従来型の観光に加え、健康の要素をまろくりに取り入れていきたい」と、事業の意義を説明する。

町は経済産業省所管の民間活力開発機構(民生活機構)と健康講座「健康づくり大学」を二〇〇五年から年一回開催。一泊二日の日程で、町民プールの利用した水中運動や森林浴、正しい温泉の入

浴法や健康食についての講義などを行った。新事業は同機構とも連携し、「大学」を通年開催する形で実施する。本年度は十月一、二の両日でイベント型の同大学を開催する予定。長野県大町市のくろよんロイヤルホテルが唯一、通年型の大学を開いている。

町観光創造課によると、草津温泉には年間百八十五万ほどの観光客が宿泊。〇四年に五千人の客を対象に行ったアンケートでは、50・8%が一泊二日、24・6%が二泊三日、日帰りが18・7%、三泊以上が5・3%だった。

町観光創造課によると、草津温泉には年間百八十五万ほどの観光客が宿泊。〇四年に五千人の客を対象に行ったアンケートでは、50・8%が一泊二日、24・6%が二泊三日、日帰りが18・7%、三泊以上が5・3%だった。